

彙報

(1)

○第7次京都大学イラン・アフガニスタン・パキスタン学術調査隊は考古美術班で組織、42年8～12月にわたり水野清一、田中重雄、西川幸治、肥塚隆はパキスタンで Chanaka-dheri, Threli, Mekha-Sanda, Asota などの発掘を、樋口隆康、桑山正進、松原正毅、吉本克俊はアフガニスタンで Chaqalaq Tepe の発掘、Iskandar-Tepe, Qala-i-Zar Tepe の予備調査を行った。現在「ドルマンテペとラルマ」、「イランの歴史と言語」が進行中。○内陸アジア研究所(羽田記念館)も活ばつに例会を開いて活動中であるが、11月2日には42年度の講演会が開かれた。岡崎正孝：カスピ海沿岸の米作農業について、西田竜雄：西夏部姓「崑厓」について、嶋田襄平：初期イスラム社会の特徴。○日本オリエント学会第9回大会は11月18、19日東京教育大学にて開催。初日は公開講演、2日目は古代、中世、近世の3部会に分れて研究発表があった。同会の「オリエント」Vol IXは7月刊行。前川和也、加賀谷寛氏らの論文がある。○第27回国際東洋学者会議は8月13～19日、アメリカのミンガン大学で開催。貝塚茂樹、藤枝晃、佐伯富、三上次男、山田信夫、本田実信、吉川守、森本公誠、梅原郁、永田英正、吉田光邦の本会員が参加。吉川氏はそののちシカゴ大学の第16回国際アッシリア学会に出席、それぞれ発表を行った。また山田氏はヨーロッパ、トルコ経由帰国、内陸アジア研究所で10月報告を行った。

(2)

○会員の動静、編集部の手もとで判明しているものに○縄田鉄男氏(島根大)は41年8月～42年3月にわたりアフガニスタンの言語調査○岩村忍氏(京大)は言語と歴史の研究調査及び国際アルタイ会議に6月～7月イギリスに出張○小林信彦氏はハーバード大学で Ph. D を得、7月1日よりカナダのトロント大学助教授、サンスクリット担当○勝藤猛氏(大阪外大)はイランのパフラヴィー大学での研究を終り7月帰国○芹沢茂氏(天理大)は8月よりイスラエル、ギリシア、アメリカの旅に出発○関本至氏(広島大)は近代ギリシア語研究のため8月～11月アテネからヨーロッパへ出張○服部正明氏(京大)はトロント大学から8月帰国○香山陽坪氏(東海大)は中央アジア考古学研究のため9～10月訪ソ、モスクワ、レニングラード、ヒヴア、マハンダリヤ、科学アカデミア・シベリア支部(ノボシビルスク)経由帰国○京大人文科学研究所長は10月森鹿三氏より藪内清氏に交代○田中四郎氏(大阪外大)は10～12月紅海沿岸のアラビア語研究のため出張○中山正善氏(天理教真柱)は11月14日急逝、哀悼の意を表したい○有光教一氏(京大)は10～12月韓国政府の招聘により新出考古学資料を調査のため韓国に出張○大地原豊氏(京大)の「La Kāśikā-Vṛtti」3e partie, Paris, 1967 は12月刊行、この巻から同氏の単独執筆○長尾雅人氏(京大)の編集「大乘仏典」(中央公論社)は12月刊行。